

日本図書館情報学会会報

No. 177

2019年10月

日本図書館情報学会事務局

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学 今井福司研究室内

(事務局業務に関する問合せ先)

(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 日本図書館情報学会

E-mail : office@jslis.jp 学会ホームページ : <http://www.jslis.jp/>

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019店 口座番号=当座 0045759 口座名義=日本図書館情報学会

2019年度会員集会開催のお知らせ

会長 小田 光宏

2019年度日本図書館情報学会会員集会を、下記のとおり、第67回研究大会の二日目に開催いたします。正会員ならびに学生会員のみなさまにおかれましては、多数ご出席いただきますよう、ご案内申し上げます。本会報には、2019年度定例(通信)総会の投票に際して寄せられたご意見やご質問に対して、常任理事会としての考え方に基づいて回答しています。会員集会では、これらのご意見に基づく発展的な意見交換をしたいと存じます。また、今年度は現役員会の最終年度であることから、次期に引き継ぐためにも、定例(通信)総会の議案とは直接関係がない事項につきましても、会員のみなさまのお考えをお示しいただきたいと念じています。よろしく、お願い申し上げます。

記

日時：2019年10月20日(日) 13:05～14:05

会場：龍谷大学 大宮学舎 東翼(とうこう)3階 301 講義室

次第：1. 会勢報告

2. 2019年度定例(通信)総会の投票結果報告

3. 委員会等報告

4. 意見交換, 質疑

5. その他

2019年度学会賞等授賞式

会員集会の開始前の13時5分より、同会場において2019年度学会賞・論文賞・奨励賞の選考結果を発表し、授賞式を行います。ならびに、学会活動に貢献された方への感謝状の贈呈を行います。ご臨席いただきますよう、お願いいたします。

2019年度定例（通信）総会の投票結果

有権者数 674（2019.6.1 現在）

投票総数 356（内訳：郵送投票 97，電子投票 259）

※電子投票および訂正版葉書による二重投票が7票ありました。これらについては訂正版葉書による投票のみ有効としました。

有効投票数 346

有効投票率 51.34%（参考 2018 年度 有効投票率 47.87%）

無効投票数 10（旧投票用紙による投票の中で、訂正版葉書での投票を行っておらず、事務局からの問い合わせに返信がないもの）

	賛	否	白票
第一号議案 2018 年度事業報告・事業監査報告	345	0	1
第二号議案 2018 年度決算報告・会計監査報告	345	0	1
第三号議案 2019 年度事業計画案	343	2	1
第四号議案 2019 年度予算案	342	2	2

日本図書館情報学会規約第 11 条第 1 項（正会員の 5 分の 1 以上：135）により総会は成立しました。第一号議案から第五号議案については、第 11 条 2 項（出席正会員の過半数：174）により、承認されました。よって、全議案は成立しました。

正会員から寄せられたご意見など（回答は常任理事会による）

定例（通信）総会のご意見欄に、正会員各位から下記のようなご意見等が寄せられました。ありがとうございます。今後の学会活動の参考とさせていただきます。

（常任理事会）

1. 研究大会などの集会がその他の会場をサテライト会場として設定して各地で同時に参加が出来るようになると有り難いです
▶ サテライト会場を設定することは、会員の研究集会への参加機会を増やすことにつながるため望ましいことではあります。しかし、研究委員会での役割分担や会場校手配など検討すべき課題が多いことから、難しいと認識しております。
2. 研究大会における大学を退職した発表者の所属について、研究委員会は、「元〇〇大学」を使用するように求めているため、「元〇〇大学」が使用されています。「元〇〇大学」で統一する方針で結構だと思っておりますが、2018 年度の研究大会におけるシンポジウムの講演者の所属には「名誉教授」が用いられています。この点に関する事情を説明し、方針を明確にしてください。
▶ 研究集会の発表プログラムは紙幅の都合上、所属先の表記を職位等を除いた機関名（大学名）のみとしております。シンポジウムの資料等は、発表者の意向を踏まえた表記としております。
3. 学会としての刊行事業につき、年刊単位での継続的な刊行（「論集・図書館情報学研究の歩み」→「シリーズ図書館情報学のフロンティア」→「わかる！図書館情報学シリーズ」）はいったん中断、と解してよいでしょうか。その分、中項目主義の『図書館情報学事典』（仮称）の充実に、まずは注力し

ていただければと希望いたします。個人的には、出版事情が厳しい中ではあるものの、『図書館情報学ハンドブック』の第3版刊行（第2版が1999年刊）も、中期的な課題として視野に入れていただければと思います。

▶ 「わかる！図書館情報学シリーズ」は第5巻までで完結とし、『図書館ハンドブック』を含む以降の出版事業のあり方を再検討することにしました。中項目主義の『図書館情報学事典』（仮称）については、今年度、編集準備幹事会を立ち上げて方針等の検討を開始しています。

4. シンポジウムのパネリストには日当2万円は支払う方が良いのではと考えます。

▶ 会員のシンポジウムパネリストについては、謝金は支払っておりません。交通費については、「役員の旅費支給に関する内規」を準用しております。非会員のパネリストについては、規定に基づき、謝金1人10,000円と交通費を支払っております。

5. 監査[ママ]からの「事業および会計に関する意見」が会報に掲載されたことは評価したいと思います。これに対し、追って理事会より回答いただき、会報等に掲載いただければと思います。

▶ 「学会活動の現状を把握しやすいように、会員数、学会発表数、学会誌掲載論文数等の数値の変化を把握し、分かりやすい形で示す」というご意見については、学会誌掲載論文数を新たにウェブサイト上で掲載します。また「ウェブサイトについて会員以外の方が利用する場合を考慮して、学会の活動内容がわかりやすいように配慮する」というご意見については、会員以外の方のためのページを設けるか、どのような内容を記述するかについて、常任理事会や理事会で議論し、会報等で周知します。

6. 役員の皆さまには運営にご尽力いただきありがとうございます。決算に達成率と進捗率、予算に前年度決算額が併記され、会計報告や計画がよりわかりやすくなりました。感謝いたします。また、幹事[ママ]の事業に関する意見もありがたく、会員として自覚をもって受け留めたいと存じます

▶ ありがとうございます。今後とも、分かりやすい資料作成に努めて参ります。

7. 誤記はどこですか？

▶ 訂正箇所は以下の通りです。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

- ・ 第二号議案の支出の部における合計金額について7,925,768円から11,211,378円へ訂正。
- ・ 第二号議案の支出の部における予備費について、選挙管理委員会日当を12,000円から14,000円へ訂正。
- ・ 第四号議案の支出の部における選挙管理委員会の前年実績を15,590円から0円に訂正。
- ・ 第四号議案の支出の部における予備費を20,000円から35,590円に訂正。

8. 学会から発行される資料等にミスが多すぎるように思います。今年度の通信総会の資料再送は周知の事柄ですが、再送された文書には元の版のどこに誤りがあったのかに関する記載がありませんでした。それ以外にも、学会から送られてきた年会費払込取扱票の右側にある「振替払込請求書兼受領証」の依頼人欄に「上記金額を本協会年会費として領収致しました。」という必ずしも必要でない文言が印字されていました。加入者名や請求金額が誤っていたわけではありませんので、このこと自体は些細な誤植なのかもしれませんが、このような文書では時に些細な誤りでは済まなくなることがあると思います。学会全体として資料等の取扱いに関する意識が低下している印象を受けました。資料等のチェック体制を強化する必要があるのではないのでしょうか。

▶ 会報No.175に掲載した2019年度定例（通信）総会の第二号議案と第四号議案に、金額の誤りがありましたこと、お詫び申し上げます。また、この誤りを正した差替版の会報（No.176・臨時号）を発行しましたが、修正箇所を明記せず、ご迷惑をおかけいたしました。修正に関する詳細は、前掲（意見7）に示していますので、ご確認ください。常任理事会では、資料等の記

載を校閲する手順と担当に関して、点検を行いました。その結果に基づき、こうしたことが二度と起こらないよう、防止策を早急に整えます。ご理解たまわりますよう、お願い申し上げます。

- ▶ なお、年会費払込取扱票における記載が、「本学会」ではなく「本協会」となっている点に関して、年会費払込取扱票を含む「請求書」の業務を委託しているガリレオに、経緯を照会しました。その結果、「請求書」全体にわたって、学会側への事前連絡なしに、2019年度より変更したことが確認されました。ご指摘いただいた記載の誤りも、その際に発生したものです。事務局では、ガリレオに対して厳重注意を行い、再発防止を求めました。

9. 適正な学会運営がなされていることに敬意を表します。今年度から会費を値上げして会費収入が増加する見込みですが、それが事業計画案や予算案の支出の部にどのように反映されているかについてご説明があれば、会費増額の意義が明確になってよいのではないのでしょうか。

- ▶ ご指摘有り難うございます。会費収入の増加について、今回の事業計画の中では、研究促進事業において研究助成の件数増加、研究発表、研究交流促進のための助成として活用しております。しかしながら、会費収入の増加分について、別途説明を付与する必要があったとのご指摘は仰るとおりです。今後会員集会の場などで広報していければと考えております。

10. 第二号議案について役員選挙等の特別な事業のない2018年度については、健全な予算執行の観点から言えば、前年度繰越金を除く収入額を、上回る支出額を予算として計上すべきではなかったと考えます。しかしながら、実際の収入を超えないように予算の執行を行った、役員の大変な努力を評価いたします。(参考) 予算 収入の部 6,950,400円 支出の部 7,925,768円 決算 収入の部 6,747,466円 支出の部 6,483,157円

- ▶ まず、前年度繰越金を除く収入額を上回る支出額を予算として計上すべきでないのご指摘ですが、この数年間は繰越金を除く収入額が上回る支出額が見込まれておりました。今回の会費値上げはまさにこれが理由となっており、今後はこのようなことが起こらない見込みです。なお、本学会の予算策定方針としては、各種費用についても費用が最大となった状態を前提として予算組みを行っております。

11. 予算書および決算書について、支出の部の会費[ママ]、収入の部の運営事業費[ママ]の合計を表示して下さるようお願いいたします。また、前年度繰越金を除く収入の合計および予備費を除く支出の合計を表示して下さるようお願いいたします。

- ▶ ご指摘有り難うございます。会報原稿の紙幅の都合がございますが、会費収入の内訳については、その重要性に鑑み、次期常任理事会以降で対応できるよう、申し送りの案件といたします。

12. 図書館情報学の範囲のテーマについて、もっと広い分野の学会で発表するケースがあると思います(学校図書館関係のテーマを学校教育関係の学会で発表する場合など)。また、大学や分野によっては、国際学会での発表を求められる場合もあると思います。これらの点から、図書館情報学の研究でも、日本図書館情報学会で発表されない場合が増えてくることが予想されます。他の学会での発表や国際学会での発表も含めて、学会会員による研究成果を把握・認識できるような学会活動の在り方が必要だと思っております。データベースを検索すれば、情報は入手できますので、例えば、本学会の会員が発表を行っている関連学会のリストや図(マップ)等があれば、検索の際の参考になり、図書館情報学の広がり理解できると思っております。

- ▶ 日本の図書館情報学の発展にとって、そのような情報を把握することは意義があることだと思います。しかし、会員の個々の研究成果までを網羅することは、その作業量からして困難であると思われまます。関連学会のリストについては現在作成中です。皆さまからの情報もお待ちし

ています。

13. 学校司書に関して、・養成教育の現状・採用状況や待遇・殊遇 [ママ] などについて、全国的な状態を知りたいと思います。
 - ▶ 文部科学省が「学校図書館の現状に関する調査」を隔年で行っており、全体的な数値は把握できます。しかし、ご意見でいただいたような実態を全国規模で把握することのできる調査等は現在ありません。
 - ▶ 現状ではこうした課題に取り組むことは、学会の課題としての優先順位は高くないと考えております。学会としては、会員による調査を支援していきたいと思っております。
14. 「関連機関・諸団体との連携・協力」については、より具体的な活動計画の明記を求めます（例として日本学術会議や、日本図書館協会 図書館調査事業委員会・課題別研究委員会が、連携・協力先の候補として考えられます）。「学会国際化」についても同様で、A-LIEP や、近隣諸国の図書館情報学研究団体との情報交換や連携も視野に入らるでしょうか。
 - ▶ 学会のあり方として、特定の機関との連携ではなく、2018年度にゲーテ・インスティトゥート東京との共催で実施したシンポジウム「図書館情報学教育の現状とこれから」のような形での連携や協力を今後も進めていきたいと考えています。
15. 一号議案と二号議案は報告事項なので、こちらに議決欄はなくてもよいのではないのでしょうか？
 - ▶ ご指摘の二つの議案は、いずれも、賛否を問うものです。議案の標題には、確かに「報告」という文字がありますが、会員からの判断を要さない「報告事項」ではなく、「審議事項」です。「事業報告案」あるいは「決算報告案」としていないのは、日本の多くの事例・慣習に倣ったものですが、「案」という言葉を添えた方がよいかどうか、常任理事会で検討いたします。
16. 今回の通信総会における議案誤記に対する対処は適切だったと判断します。5年前に起きた事態が、本学会の体質に起因するものではなかったことを証明するには、厳格な対応が必要でした。
 - ▶ 常任理事会の対応に関してご理解いただき、ありがとうございます。こうした事態を繰り返さないよう、いっそう努力いたします。
17. 学会の会員名簿、研究大会等の参加者名簿、学会誌・論文集等の著者の所属機関で、大学院生に「院生」と明記されていないため、大学院所属の教員と大学院生が区別されていません。大学院生には「院生」と明記してはいかがでしょうか。できれば、博士前期と博士後期の区別も示して欲しいと思っております。
 - ▶ 研究集会における発表プログラムは、紙幅が限られていることなどにより、所属機関名までを表記することで統一しております。その他に関しては、著者の意向と開催校の判断により表記しており、特段の支障はないと考えております。従いまして、いずれも現状のままとさせていただきます。なお、学会の会員名簿は作成しておりません。
18. J-STAGE 掲載の費用については、適切な価格（1本あたり 3,240円）と言えるかどうか（書評など短いものも1本と換算するか）、検討の余地があるかもしれません。そもそも、事業が終了したNII-ELLSに比して、J-STAGEを通じた電子化は、当学会に限らず各学会に余計な、また過度の負担を掛けていることに対しては、率直に疑問を覚えます。J-STAGEの運営元たるJSTに対し、例えば日本学術会議の関連部会等を通じJ-STAGEへの各学会誌掲載にかかる手続き等の見直しの要請を行う必要があるかもしれません。
 - ▶ J-STAGEへの掲載は、学会誌の印刷を委託している東京プレスが準備した状態を、編集委員会を確認したうえで公開するという手順で行っております。J-STAGE掲載費は東京プレスに対して支払われており、論文、書評、学会記事はいずれも同じ作業ですので同一の価格です。

「一本あたり 3,240 円」が適切な価格であるか否かは、印刷会社自体の変更を前提に検討する必要がありますが、これまでのところその必要はないと考えております。また、現段階では「過度な」負担という状況にはありませんので、JST に対する働きかけなどは予定していません。

19. 日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」の情報学分野 (<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h160323-2.pdf>) にも、日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会の「情報教育の参照基準」でも、図書館情報学への言及がないことについて、学会として対応する必要があると、一会員としては思います。

- ▶ 日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」においては、情報学の系譜の中で「コンピュータの応用技術が、多くの学問分野自体を変貌させている」事例として、「古くからある図書館情報学」という形で取り上げられてはいます。応用情報学という位置づけであり、中核となる情報学と見なされていないことは事実だと思います。中核となる情報学における文系の領域を総称する名称としては社会情報学という名称が使われています。
- ▶ 図書館情報学は情報学の中核となるべきか、より具体的には図書館情報学教育において、この基準で述べられているようなコンピュータ科学や統計学の知識を重要な柱として教育していくべきと考えるかについては、現在の学会においても意見の分かれるところではないかと思えます。図書館情報学教育のあり方に関しては、今後も継続的に議論の対象としていく必要があるかと思えます。現時点で日本学術会議に学会として直接働きかける余地はないと考えています。
- ▶ 学会としては、社会における情報システムである図書館の意義と価値に関して広く認知されるべく研究の場、教育に関する議論の場を提供していきたいと考えます。現在刊行準備中の中項目主義の事典である『図書館情報学事典』(仮称)も、図書館および図書館情報学に関する社会での認識を広める一助として位置づけております。

20. 繰越金の使途がなければ、会費減額を検討して欲しい(学生会員分だけでも)

- ▶ 繰越金は何か不測の事態が起きたときに、学会の主要事業を継続できるだけの余裕を持つ必要があります。学会誌刊行と研究大会開催で 300 万円程度はかかりますので、前年度までの 400 万円強の繰越金は予備費という意味合いが強いものです。今年度の予算において繰越金が大きく増加したのは正会員の会費を値上げしたからですが、会員全員が滞納なく会費を納めていただくことを前提としたものです。値上げしたことによる影響がないかどうか、今後の会費納入率など会費値上げから何年間かは推移を慎重に見る必要あり、繰越金が一時的に増額したから会費減額を考えるとすることはできかねます。
- ▶ 繰越金の使途に関しては、今年度で現在の役員の任期は終了するため、来年度以降の事業に関して確定的なことは申し上げられませんが、今年度の事業計画で増額した研究促進事業に関する拡充も考えられると思います。また『図書館情報学事典』(仮称)の編集が本格化すれば、かなり大規模に編集委員会を組織する必要があります。さらに事務局業務の委託は行われていますが、事務局への負担はまだかなりあり、常任理事会も含め今後の業務の効率化のために費用を使うことも考えられます。
- ▶ 学生会員に関しては、今回の正会員の会費値上げに際しても、会費を据え置いており、さらに研究大会への参加補助制度も開始しました。来期以降も、学生会員に対する支援は継続されていくと考えられます。学生会員に関しては、会費減免よりは、ニーズに合致した支援策の拡充の方向で検討することが望ましいと考えます。

21. 少子高齢化時代の社会的意義のある学会に変身するための方策をご検討ください。

- ▶ 少子高齢化時代に、図書館情報学という研究領域がどのような意義ある活動を展開していけるか、会員皆さまと考える行ければ幸いです。
22. 図書館情報学用語辞典第4版が、コトバンクから提供されているようですが、無償で提供されているのでしょうか。
- ▶ 『図書館情報学用語辞典』第4版は、2014年1月に本学会と丸善出版との間で合意のうえ結ばれた電子書籍出版契約に基づき、無料ウェブ百科事典「コトバンク」や、有料データベース「ジャパンナレッジ Lib」(小学館)で用語が提供されており、本学会は印税収入(2018年度決算報告「収入の部 4. 印税」に記載された金額の一部)を得ています。
23. 『図書館情報学用語辞典』第5版については、第4版と同様にジャパンナレッジおよびコトバンクへの掲載があるかどうか、ご回答いただければ幸いです。
- ▶ 『図書館情報学用語辞典』第5版の出版契約については、電子書籍出版契約を含め、今後、丸善出版と協議いたします。
24. 日本図書館協会の教育部会の復活、再活動に学会としても協力していただきたい。
- ▶ 日本図書館協会図書館情報学教育部会が活動を停止していたとは認識しておりませんが、本学会として図書館情報学教育に資する事業の企画等を進めていく中で、設定する主題によっては、同部会との連携も有力な選択肢のひとつになると考えます。今後、どのような連携・協力があり得るか、検討してまいります。
25. 今度辞典を中項目のものを出版する予定ですが、項目はどのような項目で何字ぐらいを予定しているのですか。
- ▶ 中項目主義の専門事典『図書館情報学事典』(仮称)については、「会報」No.174にご案内のとおり、2019年度に入って編集準備幹事会が発足し、6月から検討を始めました。詳細は今後検討してまいります。

その他、事務局または常任理事会への激励が8件ありました。

役員会等の記録

2019年度第2回常任理事会(開催記録)

日時：2019年8月10日(日) 13:00~18:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟第一会議室

出席者(敬称略)：小田，倉田，青柳，浅石(記録)，今井，岩崎，荻原，三浦

欠席者：なし

議事内容：

1. 2019年度定例(通信)総会 投票結果の整理
2. 各委員会・特命事項に関する報告・協議
3. 今後の活動
4. その他

委員会・事務局より

『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下のとおりです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」、「執筆要綱」、「『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール」をご参照ください。

(編集委員会)

- ・ 投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 (journal@jslis.jp)
- ・ 『日本図書館情報学会誌』投稿規程 2018年7月8日改訂
http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/09/c_reg_180708.pdf
- ・ 『日本図書館情報学会誌』執筆要綱 2016年10月8日改訂
http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/01/w_out_161008.pdf
- ・ 『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール 2016年10月8日改訂
http://old.jslis.jp/journal/JSLIS_review_rule161008.pdf

視覚障害者への学会誌 PDF 版の提供について

視覚障害者の会員の方に『日本図書館情報学会誌』の PDF 版データを提供いたします。ご希望の方は、事務局 (office@jslis.jp) までメールでご連絡ください。お心当たりの方は、対象となる会員の方にお声かけいただければ幸いです。事務局より、障碍の程度をお伺いした上で、提供いたします。

(編集委員会)

メールマガジンについて

総務委員会ではメールマガジンを随時、発行しています。掲載・講読希望の方は、総務委員会まで電子メール (somu@jslis.jp) にてご連絡ください。なお、掲載を希望する方は、PDF の添付ではなくメール本文に掲載内容を記してお送りください。

(総務委員会)

『図書館情報学用語辞典』第5版について

『図書館情報学用語辞典』第5版の新規項目(48項目)すべてについて、執筆協力が得られました。ご協力いただいた会員の皆さま、ありがとうございました。一つの項目にたいして、複数の方に執筆いただいている場合もあります。今後、編集委員会において入稿内容を取りまとめ、併せて既存項目の見直しも行いながら、2020年秋の刊行に向けて進めてまいります。

(『図書館情報学用語辞典』第5版編集委員会)

『図書館情報学事典』(仮称)について

6月から8月にかけて『図書館情報学事典』(仮称)編集準備幹事会会合を開きました(2回)。根本彰氏(慶應義塾大学)を座長とし、事典の編集方針や構成などについて議論を進めております。

(『図書館情報学事典』(仮称)編集準備幹事会)

2019年度の会費納入のお願い

2019年度の会費払込用紙は6月号の学会誌に封入されておりますので、そちらを利用して支払をお願いいたします。また下記の通り、クレジットカードでの支払いも可能ですので、ご利用下さい。なお、2019年度の会費を未納の方はすみやかに納入してください。2018年度までの会費を未納の場合は、2019年度と合わせてできるだけ早く納入してください。なお、会費を3年滞納した会員（学生会員は2年）については、その年度末（3月31日）に会員資格停止の手続きを行います。次年度から会員としての権利を失いますのでご注意ください。

(事務局)

【振り込み先】

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019店 口座番号=当座 0045759 口座名義=日本図書館情報学会

なお、会費は、下記のサイトへログイン後、クレジットカードによる支払い（もしくは決済）が可能です。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSLIS>

ログイン後、「オンライン決済へ進む」を押していただき、クレジットカード情報をご入力いただき、「オンライン決済の実行」をクリックすると決済が完了します。どうぞご活用下さい。

会員情報変更・退会および会員情報管理について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス、会員種別等の変更については、学会ウェブサイトに掲載されているガリレオの会員情報管理システム（SOLTI）から直接変更していただくか、「会員情報変更」のページに掲載されている「会員情報変更申請書」にご記入いただき、事務局（office@jslis.jp）までメールでお送りください。また会員種別の変更については、当該年度の4月20日までに申し出がない場合、その年度の会員種別の変更はできません。なお、翌年度から会員種別変更が見込まれる場合、前年度からも受付を行っております。学会発表時の所属や会費請求とも連動しておりますので、判明次第速やかに変更をお願いいたします。

なお、退会については特に書式はありませんので、電子メールにて、退会理由を併記のうえ、事務局（office@jslis.jp）までご連絡ください。毎年3月20日までに申し出がない場合、翌年度末での退会となり、1年分の会費請求が発生しますのでご注意下さい。

(事務局)

学会受領資料

紙幅の都合により、図書のみ記載しております。（編著者名の五十音順）

- ・ 音楽図書館協議会 40年史編集委員会 編著『日本の音楽図書館：音楽図書館協議会40年のあゆみ』音楽図書館協議会, 2019
- ・ デビッド・ボーデン&リン・ロビンソン 著, 田村俊作 監訳, 塩崎亮 訳『図書館情報学概論』勁草書房, 2019.
- ・ 根本 彰 著『教育改革のための学校図書館』東京大学出版会, 2019

- ・ 三浦 太郎 編著『図書・図書館史：図書館発展の来し方から見えてくるもの』（講座図書館情報学 12）ミネルヴァ書房, 2019
- ・ 山口 広文 著『情報革命の世界史と図書館：粘土板文書庫から「見えざる図書館」の出現へ』樹村房, 2019
- ・ 結城 俊也 著『認知症予防におすすめ図書館利用術 3：「調べる力」で脳を活性化』樹村房, 2019
- ・ 嶋田 学 著『図書館・まち育て・デモクラシー：瀬戸内市民図書館で考えたこと』青弓社, 2019

会員の皆さまが図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局（白百合女子大学今井研究室）まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定ならびに学会賞選考の際の参考とさせていただきます。

（事務局）